

咲がそらういのち



日蓮大聖人の教えを正しく伝える法華宗



「お盆の云われについて教えてください」。お盆を迎える時期になると檀家さんからよくいただく質問です。

お盆は、正式には盂蘭盆うらんぼんといい、逆さに吊り下げられるほどの重い苦しみという意味があります。盂蘭盆会ではそのような苦しみがないように、また苦しみが少しでも和らぐようにと願って、ご先祖様をはじめ、全ての精霊へ向けて供養を行います。

盂蘭盆は、お釈迦様の十大弟子の一人である目連尊者もくれんそんやが、餓鬼道がきどうに堕ちた母を救おうとした故事に由来します。母を救いたい目連尊者は、お釈迦様の教えに従って多くの僧侶を招いて法華経を唱えていただき、多くの飲食をお供えしました。その功德によって、母はもちろん、その他の餓鬼道に堕ちた者を助けることができました。これが、盂蘭盆の行事の始まりです。これを受けて、日蓮大聖人は『盂蘭盆御書うらんぼんごしよ』にて、「私たちが法華経を信じることで積んだ功

徳は、我が身が成仏するだけでなく、父母、そればかりか上は七代の先祖、下は七代の子孫、さらには生きとし生けるもの全ての成仏に繋がる」とお示しになっています。

お盆には、飾りつけなどの準備を整えた上で、みなさん揃って仏壇の前やお墓で手を合わせること、また、菩提寺の法要などを通して、元氣な姿をご先祖様にご覧いただくことを大切にしましょう。こうしたら喜んでくれるかな…生前こうしたら喜んでくれていたな…ご先祖様、そして未来の子孫の笑顔を想像してください。元氣な声で「南無妙法蓮華経」と、本門八品上行所伝のお題目を唱えることで、ご先祖様も素晴らしいお盆を迎えられたとお喜びになるでしょう。

